休日の中心商業地における子連れ家族の行動に関する研究
～福岡市天神地区を対象として～

福岡大学工学部社会デザイン工学科　辰巳　浩，堤 香代子，鈴木 貴登

1．はじめに

わが国では少子化が問題となっており、その原因の1つとして子育てに対する負担感があると考えられる。子供が楽しく時間を過ごす場所があれば子連れの買い物客が負担を感じずに買い物ができる。百貨店ではキッズスペースを設けるなどのサービスを行っているが、天神地区には子供が楽しめる施設やイベントが少なく、子連れ家族が回遊しづらい状況になっている。

そこで、天神地区における子連れの回遊行動を分析し、子連れにやさしい都心部のあり方を検討する。さらに、一般来街者の回遊行動と比較し、今後の天神地区にどのような支援・対策が必要かを検討する。

2．調査概要

調査対象は小学生以下の子供のいる家族で、設問項目は子連れでの天神地区への来街頻度、交通手段、同伴者、天神地区での回遊行動、子供が喜んだイベント等である。調査項目を表1に示す。

アンケート調査は2013年9月末の週末に、福岡市内の戸建てや集合住宅にポスティング形式で配布し、後日、郵送回収の方法で実施した。配布枚数は5,000部であり、福岡市の7区の人口比に応じた部数を各区でポスティングをした。なお、回収部数は170部で、回収率は3.4%である。

表1　アンケート調査項目

個人属性	性別，年齢，職業，子供の有無
普段の天神地区での回遊行動	来街頻度，交通手段，同行者の有無，同行者との行動，子供の様子，子供の移動方法，滞在時間，主に子供を連れて行く場所
直近の天神地区での回遊行動	来街月，同行者の有無，同行者との行動，回遊行動，イベント
天神地区への要望	あったら良いと思う施設，イベント等，天神地区での不満な点

3．調査結果

小学生以下の子供を連れて天神地区へ来街した経験のある被験者170人の回遊行動等の分析を行う。

3-1．個人属性

被験者170人の性別、職業、年齢の個人属性を図1に示す。性別は女性が83%、職業は専業主婦が最も多く52%、次いで、会社員26%である。小学生以下の子供を持つ家族であることから、年齢は30歳代が最も多く45%、40歳代42%である。

■子供の構成：被験者の家族の子供構成を図2に示す。乳幼児のみの家族が最も多く45%、小学生低学年のみ14%、高学年のみ10%、低学年と高学年の家族11%、乳幼児と低学年の家族11%である。なお、乳幼児、小学低学年、小学高学年の子供を持つ家族を対象としたために家族の種類を、“乳幼児を持つ家族”と乳幼児を持たない小学生の子供がいる家族の“小学生を持つ家族”の2つに分類した。その結果、乳幼児を持つ家族は62%、小学生を持つ家族は38%である。

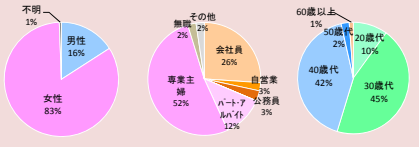


図1　個人属性（n=170）

図2　子供の構成と家族の種類（n=170）

3-2．天神地区への来街形態

■来街頻度：家族の種類別の天神地区への来街頻度を図3に示す。家族の種類で来街頻度に差はなく、週に数回は6%、月に数回は27%、年に数回が最も多く67%を占める。

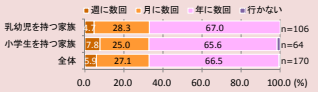


図3　天神地区への来街頻度

■交通手段：家族の種類別に天神地区への来街時の交通手段を図4に示す。乳幼児を持つ家族では自家用車の利用が最も多く43%を占める。それに対し、小学生を持つ家族では30%であり、自家用車に代わり電車の割合が36%を占める。バスは両者とも25%前後である。

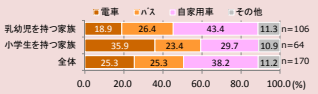


図4　天神地区への来街時の交通手段

■同伴者：子供を連れて天神地区へ来街するときの同伴者を図5に示す。全体では自分と子供のみで来街が36%、配偶者・パートナーと同伴するが最も多く47%、親と同伴するが11%である。

家族の種類別では乳幼児を持つ家族は配偶者・パートナーと同伴が最も多く51%を占め、自分と子供のみ26%、親と同伴14%である。これに対し、小学生を持つ家族では自分と子供のみが最も多く53%を占め、配偶者・パートナーと同伴39%、親と同伴5%である。

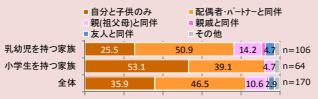


図5　天神地区への来街時の同伴者

■同伴者との行動：天神地区での同伴者との行動を図6に示す。自分と子供（同伴者なし）との行動が33%、自分と同伴者と子供との行動が64%を占める。同伴者や子供と別行動をとる割合は4%に過ぎず、ほとんどが来街時の人員構成で回遊をしている。

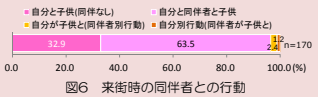


図6　来街時の同伴者との行動

3-3．天神地区での回遊

■子供の様子：子連れで天神地区へ来街したときの子供の様子を図7に示す。子供全体では天神地区に行くことをとても喜ぶ子供が7%、喜ぶ子供が30%である。反対にいやがる子供が10%、とてもいやがる子供が2%である。

家族の種類別では乳幼児を持つ家族ではとても喜ぶ3%、喜ぶ28%であり、いやがる割合は10%である。小学生を持つ家族ではとても喜ぶ15%、喜ぶ34%、いやがる割合は16%を占め、喜ぶ割合も増えるがいやがる割合も増える。

同伴者別では、子供にとって祖父母との同伴が最も喜ぶ割合が高く44%を占める。それに対し、自分と子供のみ、配偶者・パートナーを同伴の場合は喜ぶ割合が35～38%で、いやがる割合も13～14%と、喜ぶ割合が減り、いやがる割合が増える。このことから推察されることは、親との回遊は親の買い物等がメインで、祖父母との回遊は子供がメインになると思われ、子供が喜ぶ傾向にあると考えられる。

■移動手段：子連れでの移動の際の移動手段を図8に示す。全体ではベビーカーでの移動23%、おんぶ・だっこが9%である。ベビーカーでの移動は乳幼児を持つ家族37%、同伴者なしの場合18%、配偶者等の同伴者ありの場合25%前後である。

■通行通路：天神地区の地下街や地下通路のある場所での地上あるいは地下の移動結果を図9に示す。全体では地下通路を利用しての移動が54%、地上が19%、地上と地下同じくらいが28%である。天神地区での移動は半数以上が地下通路を利用している。

家族の種類別では、乳幼児を持つ家族は地上移動の割合が小学生を持つ家族よりも若干多く22%であるが、地下利用はほぼ同値の53%を占める。祖父母との回遊の場合は地下移動の割合が61%と高く、3世代での回遊では、天候、自転車、車等の危険のない地下通路での移動が好まれているのではと推察される。

■滞在時間：子連れで天神地区へ来街したときの滞在時間は、1時間以内1%、1～3時間62%、3～5時間36%、5時間以上2%であり、1～3時間が最も多い。家族の種類や同伴者の種類による滞在時間に差はみられない。

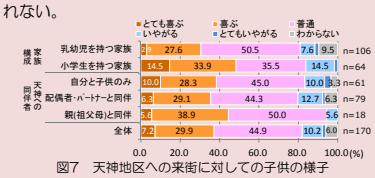


図7　天神地区への来街に対しての子供の様子

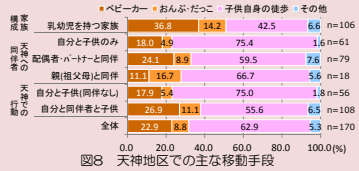


図8　天神地区での主な移動手段

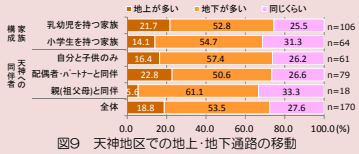


図9　天神地区での地上・地下通路の移動

■よく行く場所：天神地区で子供を楽しませたり、休ませるために連れて行く場所を、最大5つまで回答する記述式の回答結果を、子供の年齢別に図10に示す。その結果、子供の年齢に関わらず、岩田屋や大丸等の百貨店やその周辺での回遊が多いことがわかった。次に、そこへ連れて行く理由を図11に示す。岩田屋や大丸ではキッズスペースについて行く、VIORE周辺は授乳室が個室で使いやすい・子供が騒いでも大丈夫なcaféがある・ベビーカーで入れるトイレがある、福岡市役所への回遊は天神涼園地へ連れていく、パルコ周辺は館内のおもちゃ屋・ディズニーストアに連れていく、警固公園では子供を遊具で遊ばせたり走り回らせたりできる・親も休憩・憩いができる場などが挙げられた。これらの理由から、子連れの来街者には子供を楽しませたり休憩の場としてキッズスペースや子供向けのイベントが求められているといえる。

■回遊分布図：直近の天神地区来街時の回遊行動を図12に示す。子連れ家族も一般来街者も百貨店を中心に回遊している。なお、子連れ家族が広範囲に回遊している。

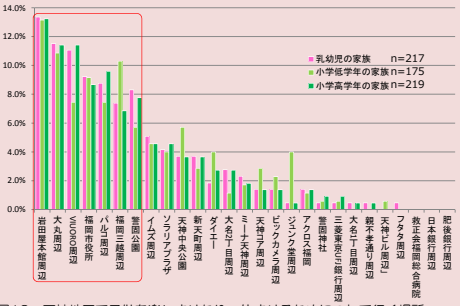


図10　天神地区で子供を楽しませたり、休ませるためについて行く場所

岩田屋本館周辺
- お右うち売り場のキッズスペースに連れて行く（18）
- 食事（9）
- 授乳室で子供の授乳やオムツ替え（5）
- 買い物（5）
- その他（2）

福岡三越周辺
- 買い物（12）
- 食事（5）
- 休憩（3）
- 赤ちゃんの休憩室や授乳室（2）
- 西鉄利用時に電車やバスを見る、乗る（2）

大丸周辺
- 子ども用品売り場に行くと子供を遊ばせるキッズスペースがある（13）
- 買い物（8）
- 食事（7）
- 大丸地下のトイレが広くきれいなので（2）
- 託児施設があるので（2）
- 1階のカフェで休憩、オープンカフェなので少々子供が騒いでも気楽（1）
- その他（4）

図11　子供を楽しませたり、休ませる場所にある物・そこですること

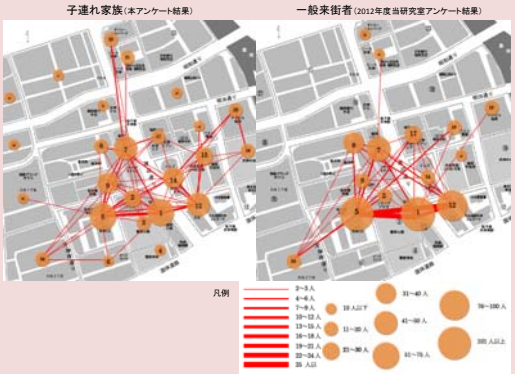
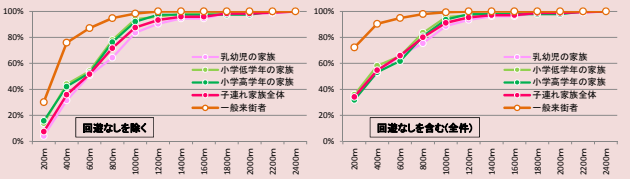


図12　天神地区での回遊行動（直近の天神地区来街時の子連れと一般来街者）

■回遊距離：直近の天神地区来街時の回遊距離分布を図13に示す。1ヶ所のみ訪れて回遊をせずに帰宅した被験者は29%であり、この場合を回遊なしとした。図13では回遊なしを除いた場合と含む（全体）場合を示した。また、2012年度に当研究室でアンケートを行った一般来街者の調査結果と比較した。天神地区に来街した場合に回遊をする割合は子連れ家族が71%に対し、一般来街者は40%であり、子連れ家族の方が回遊の割合が高い。これは子連れ家族の方が来街頻度が少ないことから、来街時に回遊する割合が高いといえる（2012年当研究室の結果：一般来街者の天神地区来街頻度は週に数回18%、月に数回51%、年に数回29%）。そのために回遊なしを除く場合も含む（全体）場合も子連れ家族の方が回遊距離が長く、前者は子連れ家族638mに対し、一般来街者は342m、後者は子連れ家族454mに対し、一般来街者は136mである。子供の年齢の違いでは、両者ともに乳幼児を持つ家族が小学生を持つ家族よりも回遊距離が長い。



子供・家族	乳幼児	小学生低学年	小学生高学年	子連れ家族全体	一般来街者
平均距離(m)	691.1	569.7	580.4	638.1	341.7
標準偏差	413.5	328.3	370.3	389.9	222.8
標本数	73	50	38	121	116

子供・家族	乳幼児	小学生低学年	小学生高学年	子連れ家族全体	一般来街者
平均距離(m)	475.9	425.1	469.3	454.1	135.8
標準偏差	469.2	376.7	403.7	437.9	218.4
標本数	106	67	47	170	292

図13　直近の天神地区来街時の回遊距離

■子供が喜んだイベント：

天神地区で子供が喜んだイベントのベスト3を、喜んだ順に回答する記述式の回答結果を図14に示す。最も喜んだイベントは天神涼園地29%、次いで、クリスマスイルミネーション25%、福岡市の伝統の祭りである博多どんたく18%、飾り山5%である。

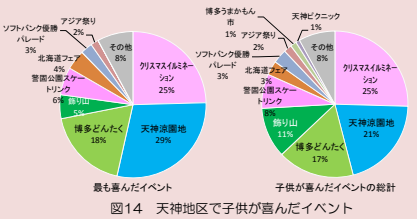


図14　天神地区で子供が喜んだイベント

なお、最も喜ばれたイベントに天神涼園地が選ばれた理由は、天神地区には子供が体を動かして遊べるイベントが少ないために当地が選ばれたと考えられる。また、アンケート調査が9月末だったことも理由の一つと考えられる。ベスト3の総計では、最も喜んだイベントはクリスマスイルミネーション25%、次いで、天神涼園地21%、博多どんたく17%、飾り山11%である。

4．まとめ

天神地区への来街時の子連れの家族の回遊行動でわかったことは、乳幼児を持つ家族は小学生を持つ家族よりも自家用車の利用割合が高い、乳幼児を持つ家族は同伴者の割合が高い、同伴者を伴う子連れの来街者は来街時の人員構成で回遊している、天神地区への来街を1割の子供は嫌っている、乳幼児を持つ家族の37%はベビーカーでの移動、地上よりも地下通路の利用が多い、百貨店およびその周辺の回遊が非常に多い、キッズスペースやトイレ等の設備の整った場所が好まれる、回遊距離が一般来街者よりも長いなどである。

一般来街者に比べ子連れ家族の来街頻度は少ないため、当然、来街したときは回遊距離が長くなっている。そのために、子連れにやさしい都心部にするためには子供が楽しく過ごせる場所や休ませる場所等の整備が重要である。また、乳幼児を持つ家族の37%はベビーカーを使用しており、地上の移動割合が小学生を持つ家族よりも高いことから、地上通路、地下通路、特に、地上と地下をつなぐ接続部の整備も必要である。子連れや一般来街者の来街時の回遊は百貨店およびその周辺が多いことから、百貨店周辺の地上の整備も必要である。さらに、子供が体を動かし遊べるイベント等があれば子連れ家族が回遊しやすくなり、天神地区の来街頻度が増えると考えられる。

参考資料
2012年度卒業論文「福岡都心部における休日の回遊行動に関する研究」，十亀良幸
2013年度卒業論文「福岡都心部における休日の回遊行動に関する研究 -平成24年度実施アンケートの詳細分析-」，宮原大貴

福岡大学工学部社会デザイン工学科 交通・都市システム研究室　福岡市城南区七隈8-19-1 TEL：092-871-6631(内線6483)